



東日本大震災津波 岩手県立大学の復興支援

平成27年度実績



はじめに

平成23年3月11日の東日本大震災津波から、5年が過ぎました。岩手県立大学では、災害発生直後から被災地への支援を本学の使命として受け止め、教職員や学生の復興支援活動を継続して取り組んでいます。

本資料は、これら本学の主な復興支援活動の平成27年度の実績についてとりまとめたものです。

《資料の構成》

1 学生への支援

- (1) 被災学生への経済的支援
- (2) 平成28年度入試に向けた取り組み
- (5) 学生による支援
- (6) 地域との連携
- (7) 他大学との連携

2 地域社会への貢献

- (1) 各学部、各短期大学部の取り組み
- (2) 災害復興支援センターの取り組み
- (3) 地域政策研究センターの取り組み
- (4) いわての教育及びコミュニティ

形成復興支援事業

3 危機管理対応

- (1) 滝沢キャンパスの状況
- (2) 宮古キャンパスの状況

1 学生への支援

(1) 本学に在籍する被災学生への経済的支援

ア 入学料・授業料の減免

- ① 平成23年度～27年度入学生の入学料を減免
- ② 平成23年度前期～27年度後期の授業料を減免
- ③ 平成28年度入学生の授業料減免を決定
- ④ 平成28年度前・後期の授業料減免を決定

【減免の内容(平成27年度実績)】

費目	支援措置	支援対象者	支援金額	免除認定者数
入学料	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として全額免除 ・詳細については相談内容を踏まえて決定 ・既に納付した後に被災した者に対しては還付 	次のいずれかに該当するもの ①住居の被災 (全・半壊、大規模半壊、全・半焼、流失) ②学資負担者の死亡 または行方不明 ③福島原発事故による立退き等	学部・大学院 岩手県内225,600円 岩手県外338,400円 盛岡短大部・宮古短大部 岩手県内135,400円 岩手県外203,000円	※平成27年度入学生 [学部・大学院]11名 (H23: 34名、H24: 34名、H25: 36名、H26: 34名) [盛岡短大部、宮古短大部]8名 (H23: 13名、H24: 13名、H25: 14名、H26: 10名)
授業料	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として全額免除 ・詳細については相談内容を踏まえて決定 		学部・大学院 前期・後期各267,900円 盛岡短大部・宮古短大部 前期・後期各195,000円	[学部・大学院]172名 ※前期及び後期の延べ人数 [盛岡短大部、宮古短大部]33名 ※前期及び後期の延べ人数

【減免額】

- ・平成27年度入学料 3,970千円 (H23: 10,287千円、H24: 10,175千円、H25: 10,807千円、H26: 9,882千円)
- ・平成27年度授業料 45,000千円 (H23: 65,535千円、H24: 48,119千円、H25: 53,709千円、H26: 52,711千円)

イ 岩手県立大学学業奨励金に「被災学生特別枠」を創設

既存の岩手県立大学学業奨励金に「被災学生特別枠」を創設し、アの「支援対象」欄のいずれかに該当する被害を受けた世帯の学生を対象に奨学金の交付を開始した。

【実績】

- ・平成27年度奨学生 11名 年間総貸与額 3,600千円 (月額30,000円または50,000円)

(2) 平成28年度入試に向けた取り組み

① 県立大学オープンキャンパスへの参加のためのバス運行を支援

被災地の高校からの7月5日（日）開催のオープンキャンパスに参加するためのバス運行経費を大学が負担（10校15台分）。参加者数2,400人

② 震災特別推薦入試の実施

- ・ 県内高等学校からの要請等を踏まえ、平成24年度入試に創設した震災特別入試を平成27年度入試から「震災特別推薦入試」に名称を変更して継続実施。平成28年度入学者選抜の結果は下記のとおり。

（参考 H24入試：39名受験、22名合格 平成25年度入学者選抜：40名受験、22名合格
H26入試：29名受験、15名合格 平成27入学者選抜：10名受験、8名合格）

対 象：本人又は保護者が震災により被災した県内の高校生

実施学部：岩手県立大学 全学部、盛岡短期大学部、宮古短期大学部

期 日：平成27年11月22日（日）（宮古短期大学部 11月18日（水））

募集人員：各学部若干名

選抜結果：16名受験、8名合格



2 地域社会への貢献

岩手県立大学の復興支援体制

学部・短期大学部

p.6 - 11

学部プロジェクト研究など学部特性や、教員の持つ専門性を活かした支援活動を展開

看護学部

社会福祉学部

ソフトウェア情報学部

総合政策学部

盛岡短期大学部

宮古短期大学部

災害復興支援センター（H23.4.5設置）

被災地域の復興を、教職員や学生のボランティア活動、教職員の派遣等を通じて支援することを目的に設置

- ・ボランティアを希望する学生に備えてボランティア事前研修実施、ボランティア保険加入手続（H23～）
- ・ボランティアバスの運行（H23：5回、H24：8回、H25：9回、H26：14回、H27：8回）、活動に必要な物資の提供や必要経費の配分（H23～）
- ・海外の大学との交流活動実施（H23～）

p.12-14

地域政策研究センター（H23.4.1設置）

地域との連携を強化し、県民のシンクタンクとしての役割を発揮することを目的に設置

- ・「震災復興研究部門」を設置し、「暮らし」、「産業経済」、「社会・生活基盤」の3分野において15課題の研究を推進（H23～24）
- ・「地域協働研究」として、①教員提案型、②地域提案型（共同研究実施）の2分野において地域課題等を解決するための研究を推進（H24～）

p.15-19

連携

学生

学生の活動についてはp.23-27

(1) 各学部、各短期大学部の取り組み

看護学部

①「盛岡地域で生活している被災者を対象とした定期的な健康相談」

時期：平成27年度（隔月：1回）（合計7回）

場所：岩手県公会堂

概要：東日本大震災により三陸沿岸地域で被災した住民が盛岡地域に避難し、約700世帯がみなし仮設といわれる民間アパートなどで生活されている。このような被災者の支援を行っている一般社団法人SAVE IWATEの活動のひとつとして当学部の教員が健康相談を行っている。主な内容は、血圧測定や糖尿病患者の健康相談・支援、食事指導などであり、健康上の不安などについて相談に応じている。相談される方は高齢者が多く、加齢による身体的な不安を抱えて生活されていた。被災者に関心を寄せ、直接関わることの重要性を実感している。

②「岩手県の災害看護支援ナースの育成と防災・災害支援の啓発活動」

時期：平成27年度 ①7月25日 ②9月19日 ③11月14日

場所：県立大学滝沢キャンパス

概要：県内看護職員の防災・災害支援に関する知識・技術の習得とともに啓発のための研修会を岩手県災害看護ネットワーク協議会との共催で開催した。一回目は災害の中でも「噴火」をテーマにした研修会を開催し、二回目は、災害後の「心のケア」をテーマに行った。三回目は災害現場で基本となる「トリアージ」について、演習も取り入れながら行った。研修会は参加者のニーズを踏まえての企画・実施となっており、参加後のアンケートにおいても満足度は高かった。

③「動作法によるストレスマネジメント研修会」

時期：平成27年度 ①7月25日 ②8月11日

場所：①久慈中央公民館 ②県立大学滝沢キャンパス

概要：教諭や養護教諭、保健師など子どもの心身の健康増進・発育に携わる専門職を対象として、動作を用いたストレスマネジメントワークショップを開催した。研修内容は、①動作法を通して援助する体験、②あぐら座位での前屈課題における、援助を受け入れ自体の緊張と向き合って弛める体験、③肩上げ動作課題における、自体に意識を向けて目標に沿って動作努力する体験などである。参加者からは、筋緊張している子供たちに活用したい、保健室にきた子供たちへの対応に活かせる、職場に持ち帰り実践したいなどの意見が多かった。

(1) 各学部、各短期大学の取り組み

社会福祉学部

①「災害派遣福祉チーム設立支援」

時期：平成25年4月～平成28年3月（継続中）

場所：岩手県内全域

概要：岩手県災害派遣福祉チームの制度を平成25年度に設立したが、チーム員の登録研修、スキルアップ研修1、スキルアップ研修2（リーダー養成）の内容を検討した上で実施した。実際に派遣できるレベルを目指したスキルアップ研修1、チーム員のリーダー養成のスキルアップ研修2と体系立てることができた。また、防災訓練に参加したり、圏域ごとに在住する登録チーム員同士の顔合わせや情報交換等をセミナー開催時などに設定したりするなど、チーム員のレベルアップを行った。さらに、次年度以降実際に派遣するための手続きの詳細を検討した。

②「東日本大震災被災地地域住民のこころの健康に関する研究：釜石市民の精神的健康の実態把握とその支援」

時期：平成24年4月～平成28年3月（継続中）

場所：岩手県釜石市

概要：東日本大震災が人々のメンタルヘルスに及ぼした影響を、岩手県釜石市に居住する市民を対象に、近親者との死別による悲嘆、抑うつ、行動の変化といった観点から明らかにする健康調査を行い、適切な支援について提案するための調査研究である。平成24年度からの継続的な変化を捉えている。27年度も引き続き学部プロジェクト研究の一部として取組み、分析を行った。今後、市民に「こころのケア」ということで還元するための分析等を行い、どのように還元していくか市の担当者と検討を続けている。

③「子ども・子育て支援活動に関する市民協働への支援」

時期：平成26年4月～平成28年3月（継続中）

場所：岩手県大船渡市

概要：大船渡地区の子ども・子育て支援に関する提言作成に向けて岩手県立大学地域協働研究（2013年度後期）として支援活動を開始。市内の子育て支援者や子育て当事者、市議等々で任意団体「おおふなと・キッズ・ワーキング」を設立。2014年5月～7月に子育て中の母親や高校生を含む市民協働によるワークショップを計7回開催し、その結果を子育てしやすいまちづくり実現に向けて5項目の提言書にまとめて2014年9月に大船渡市長に提出（提言書は全国で第9回マニフェスト大賞 優秀復興支援・防災対策賞を受賞）。研究期間終了後も支援を継続実施。その結果、2015年3月に策定された市の事業計画に「子育て支援ネットワーク会議」の設置などが具体的に盛り込まれた。27年度は大きなイベントはしなかったが活動を継続している。

(1) 各学部、各短期大学部の取り組み

ソフトウェア情報学部

①「仮設住宅や復興住宅における仮設商店の社会実装」

時期：平成27年度

場所：宮古市の仮設住宅や釜石市の復興住宅

概要：無人販売のプリペイド型簡易商店システムの社会実装を行っている。被災地住民が買物で不自由している状況の解決のため、研究室内で運用実験を行っていた商店システムを復興公営住宅などで運用している。ユーザーの要望を受けて、機能を追加するなど、システムの改良も行っている。

②「被災地観光アプリケーションソフトウェアの開発」

時期：平成27年度

場所：宮古市田老地区

概要：ビーコンを使った被災地観光支援アプリを開発している。観光ポイントに設置したビーコンの電波を受信することで、震災前の建物写真や歴史等の情報提示を行うものである。田老地区において実証実験を行い、実用化が決定されている。

③「タブレットPC教室を通じたコミュニティ再生の支援」

時期：平成27年度

場所：大船渡市越喜来地区

概要：高齢者から小学生までの多様な参加者を対象としたタブレットPC教室を開催した。参加者間での学び合いやコミュニケーションを促すカリキュラムとすることで、受講者のICTスキル向上ももちろんながら、コミュニケーションの活性化も実現され、オンラインでのコミュニケーションがオフラインでのコミュニケーションへ与える影響について分析を行っている。

(1) 各学部、各短期大学の取り組み

総合政策学部

①「地域コミュニティ復興研究」

時期：平成27年12月10日～12月25日

場所：大船渡市

概要：第1次量的社会調査（2011年12月）に回答した大船渡市民のうち、その後2年毎の継続調査への協力を応諾した649名を対象として、「第3回パネル調査」を実施した（有効回収票394票）。その結果、住宅再建に関わる「市民生活」や産業の復興に関わる「産業・経済」については過半数が復興の進捗を肯定的に評価するとともに、行政の復興の取り組みに対する評価も第2回パネル調査（2013年12月実施）との比較で大きく改善し、生活に関する不安感についても前回調査との比較で全体的な低下が見られた。一方、住宅再建が実現していない人については、依然として復興の進捗や生活状況に関して否定的な回答傾向がみられた。これらの結果の概要については、2016年3月に「復興に関する大船渡市民の意識調査 第3回パネル調査報告書（速報）」として取りまとめ、調査対象者や各報道機関及び大船渡市役所に対して発表・報告を行った。なお、調査結果の一部は、毎日新聞（2016年3月9日付27面）、東海新報（2016年3月13日1面）、河北新報（2016年3月23日32面）に掲載され、震災後5年時点での津波被災地の復興進捗の現状に関して、現地の住民の方だけではなく、県内及び東北地方の人達に広く発信することができた。

②「三陸沿岸における震災後の海浜植生の現状と保全対策」

時期：平成27年4月～平成28年3月

場所：野田村十府ヶ浦，山田町船越（以上2件は海浜植生保全），大船渡市越喜来泊地区（海崖林再生実験）

概要：防潮堤工事によって消失することとなった海浜植生を保全するために、岩手県北・沿岸広域振興局と協働し、保全対策を野田村十府ヶ浦および山田町船越で行った。具体的な保全活動は①表面の砂の仮移植、②根茎の採取および仮移植、③種子の採取および苗づくり、④現地保全区の設定である。いずれの場所においても、①および④の作業は岩手県が行い、その後のモニタリング調査を県立大学が行った。②および③については県立大学が主導で行っている。③の苗づくりでは、地元NPO（十府ヶ浦）や小学校（船越）と協働して行う計画があり、その打ち合わせを行った。これらについては、学会での報告や本の執筆を行った。また、大船渡市越喜来泊地区では、海岸林再生実験を昨年度から行っており、今年度は除草および樹木の計測を行った。

③「インターネットアンケートを用いた三陸ジオパークの顧客獲得に関する研究」

時期：平成27年9月17日

場所：三陸海岸

概要：論文が学会誌「地学雑誌」に掲載。著者：伊藤英之ほか。インターネットアンケート（2014年3月7日～3月8日；予定回収数400）を用いて得られたデータ（三陸ジオパークの顧客となり得る観光客の旅行動向、三陸海岸のイメージ、ジオパークの認知度、旅行への動機づけ等）を基に各種分析を行なった結果、三陸ジオパークへの来訪者増加には、岩手の隣接県および首都圏への情報発信が効果的であることが示唆された。また、三陸海岸への来訪経験者ほど、「自然・景観」「地域・文化」の両面から三陸海岸を捉えている傾向が認められた。

(1) 各学部、各短期大学部の取り組み

盛岡短期大学部

①「各学科専攻の卒業研究において、岩手県をフィールドにした研究」

時期：平成27年4月～平成28年2月

場所：岩手県内

概要：下記などのように卒論研究においていくつかの震災復興に関する研究がある

- 東日本大震災における洗濯や衣服の支援について
- 震災後3年間の宮古市内における住宅着工状況の推移
- 東日本大震災から4年8ヵ月後の宮古市の仮設住宅居住者へのヒヤリング調査 など

②「地域政策研究センター地域協働研究などによる教員の専門性を活かした取組」

時期：平成27年6月～平成28年3月

場所：山田町

概要：地域政策研究センター地域協働研究

- 山田町における被災信仰石造物調査結果の可視化およびその成果公開に向けての研究

③「オハイオ大学、本庄国際奨学財団等との共同支援活動」

時期：平成27年9月25日～27日

場所：大槌町、大船渡市、陸前高田市

概要：平成23年度からオハイオ大学等との共同による復興支援活動

「水ボラ」を中心に共同による復興支援活動を実施

(1) 各学部、各短期大学部の取り組み

宮古短期大学部

①「地域総合講座」

時期：平成27年4月～7月

場所：宮古短期大学部

概要：地域の様々な分野で活躍している方々を講師に迎え、地域振興・震災復興等に関する講義を学生へ実施した。主な内容は以下のとおり。（カッコ内は招聘講師）

- ①「宮古市復興のまちづくり」（宮古市長 山本正徳 氏）
- ②「被災地マーケティング」（岩手県中核観光コーディネーター 草野悟 氏）

②「学生ボランティア支援」

時期：通年(主に週末)

場所：宮古市内

概要：宮古短期大学部学生赤十字奉仕団により、主に以下の支援活動を行った。①NHK公開復興サポート「明日へin宮古」各番組出演、②宮古市「街なか復興市」や宮古市社会福祉協議会「わくわく祭り」など復興関係地域行事出店、③復興公営住宅交流会参加、④日本赤十字社青年リーダー研究会など被災者支援青年赤十字奉仕団行事参加、⑤宮古駅前花植、⑥日本赤十字社青年奉仕団員被災地訪問（福島県）参加（顧問教員＝ファシリテーター・学生1名＝岩手県代表）、⑦被災地研修の企画～実施、など。さらに、震災により学習環境が悪化した児童・生徒に対する自学自習サポート等支援活動を委員長が定期的に実施した（学長奨励賞受賞）。

③「学ぶ防災ツアー」

時期：平成27年6月20日

場所：宮古市田老地区(震災遺構)、浄土ヶ浜周辺

概要：岩手県立大学宮古短期大学部協力会が主催する、宮古地域について理解を深めてもらうことを目的とした、地域の実態について学び、体験する「学ぶ防災ツアー」に参加し、東日本大震災で甚大な被害が出た田老地区の現状を知り、防災意識を高めるとともに、地域を代表する観光資源である浄土ヶ浜を散策し、自然のすばらしさを体感した。参加学生数は13名。

(2) 災害復興支援センターの取り組み (ボランティア活動等への支援)

①組織体制

災害復興支援センター
(H23.4設置)

センター長

副センター長

復興支援員

看護学部、社会福祉学部、
ソフトウェア情報学部、総合政策学部、
盛岡短期大学部、宮古短期大学部

連携・協働

教育
復興
支援員

連携

岩手県立大学 学生ボランティアセンター

②活動状況

H27年度実績(3月末現在)

必要な物資の調達・貸与

腕章、ビブス、ヘルメットなどの貸出し

活動計画受付及び経費の支援

・7件受付 ・ 2,542千円支援

ボランティア活動保険への加入手続き

・ボランティア活動保険への加入
284人

ボランティアバスの運行、
オハイオ大学との交流活動実施

・ボランティアバス8回運行、参加者127名(教職員25名含む)
・オハイオ大学との交流活動実施、本学参加者50名(教職員18名含む)
※詳細は次ページ

寄付金の受入、活用

平成27年度受入 2件 3,030千円

活動事例① ボランティアバスの運行

1 運行日

①5月16日/②5月24日/③6月14日/④7月11日/⑤9月5日/⑥11月29日/⑦12月27日/
⑧1月30日/

2 ボランティアの活動場所

- ①、③、⑤、⑦、⑧ オートキャンプ場モビリアほか（陸前高田市内）
- ② 宮古短期大学部（宮古市）：NHK公開復興サポート明日へin宮古
- ④ 大槌川河川敷（大槌町）：菜の花プロジェクト河川敷清掃
- ⑥ 大槌川河川敷広場（大槌町）：おおつち鮭まつり会場河川敷清掃

3 ボランティア活動の内容及び参加者

- | | |
|----------------------|------------------------------|
| ① ペットボトル飲料の荷降し、運搬、配付 | （参加者 学生 5名、教職員等 10名） |
| ② NHK公開復興サポート明日へin宮古 | （参加者 学生 19名、教職員等 1名） |
| ③ ペットボトル飲料の荷降し、運搬、配付 | （参加者 学生 4名、教職員等 8名） |
| ④ 菜の花プロジェクト河川敷清掃 | （参加者 学生 23名、教職員等 4名） |
| ⑤ ペットボトル飲料の荷降し、運搬、配付 | （参加者 学生 0名、教職員等 16名） |
| ⑥ おおつち鮭まつり会場河川敷清掃 | （参加者 学生 8名、教職員等 4名） |
| ⑦ ペットボトル飲料の荷降し、運搬、配付 | （参加者 学生 2名、教職員等 13名） |
| ⑧ ペットボトル飲料の荷降し、運搬、配付 | （参加者 学生 0名、教職員等 10名） 合計 127名 |

活動事例② 海外の大学等との連携

～オハイオ大学・本庄国際奨学財団と岩手県立大学の学生たちが共に活動～

オハイオ大学（H23年度～）、本庄国際奨学財団（H25年度～）及び本学が連携を図り、東日本大震災に係る被災地の復興支援ボランティア活動を継続して実施している。平成27年度は大槌町、陸前高田市を主たる活動場所とし、高田高校の生徒も参加して活動が行われた。

1 日程・活動場所

平成27年9月25日(金)～27日(日) 大槌町、陸前高田市ほか

2 参加者

- | | | |
|--------------|---------------|-----------|
| (1) 本学 | 50名（うち、学生32名） | |
| (2) オハイオ大学 | 20名（うち、学生16名） | |
| (3) 本庄国際奨学財団 | 25名（うち、学生21名） | |
| (4) 高田高校 | 22名（うち、学生19名） | ※9/26のみ参加 |

3 活動内容

- ・河川敷環境整備事業（大槌町 菜の花の播種作業）
- ・語り部による津波被災体験講話（大船渡市 津波伝承館 館長による講話の聴講）
- ・郷土芸能を交えた交流活動（大船渡市 浦浜念仏剣舞）
- ・復興支援ワークショップ（陸前高田市）
- ・お茶っこ会（陸前高田市）
- ・心化場清掃奉仕活動（陸前高田市）
- ・水ボラ活動 ペットボトルのお茶を仮設住宅へ各戸配付（陸前高田市）など



(3) 地域政策研究センターの取り組み

①地域政策研究センターの設置と概要

- ◇ 地域との連携を強化し、県民のシンクタンクとしての役割を発揮することを目的に、平成23年4月に設置。
- ◇ 平成24年度からは、「地域協働研究」として、学内教員と地域団体等(県・市町村等の公共団体、地域団体、NPO等)との協働により、地域課題等を解決するための研究を実施。特に震災復興研究は重点課題として位置づけて推進している。

教員提案型【学内教員が地域団体等を行う共同研究を対象、地域ニーズに対応した研究を推進】
震災復興関係の研究：平成26年度後期2課題を継続して実施、平成27年度前期2課題を新規採択した。

地域提案型【地域団体等を対象に地域課題を公募、学内教員とのマッチングを経て研究を推進】
震災復興関係の研究：平成26年度後期2課題を継続して実施、平成27年度前期2課題、後期2課題を新規採択した。

- ◇ 平成26年度より「東日本大震災津波からの復興加速化プロジェクト研究」をスタート。平成26年度採択の2つのプロジェクトを継続実施し、平成27年度には1つのプロジェクトを新規採択して、計3つのプロジェクトを推進した。

- ◇ 平成26年度までに発行済みの3冊の報告集に加え、平成26年度末で完了した「地域協働研究(教員提案型/地域提案型)」について、「研究成果報告集3」をあらたに発行した。

- ①「震災復興研究 研究成果報告集」
- ②「地域協働研究 研究成果報告集1【平成24年度 教員提案型/地域提案型・前期】」
- ③「地域協働研究 研究成果報告集2【平成24年度 地域提案型・後期】【平成25年度 教員提案型・前期/地域提案型・前期】」
- ④「地域協働研究 研究成果報告集3【平成25年度 教員提案型/地域提案型・後期】【平成25年度 教員提案型/地域提案型・前期】」



(3) 地域政策研究センターの取り組み

② 地域協働研究

平成26年度 教員提案型【後期】 (期間：H26.10~H27.9)

課題名

代表者名 (学部)

- 「震災後の釜石市における町内会の変容と課題」
総合政策 教授 吉野英岐
- 「看護職や看護学生によるレジリエンスを活用した被災者の長期的健康支援の活動モデルの開発」
看護 准教授 井上都之

平成26年度 地域提案型【後期】 (期間：H26.10~H27.9)

課題名

提案者

代表者名 (学部)

- 「地産品へのジオストーリー付加による新たなジオパークプロモーション手法の開発」
提案者：三陸ジオパーク推進協議会
総合政策 教授 伊藤英之
- 「産地魚市場と消費地市場を結ぶ水産市場物流の再構築に関するフィージビリティスタディー」
提案者：岩手県沿岸広域振興局
社会福祉 教授 青木慎一郎

平成27年度 教員提案型【前期】 (期間：H27.6~H28.3)

課題名

代表者名 (学部)

- 「山田町における被災信仰石造物調査結果の可視化およびその成果公開に向けての研究」
盛岡短大 教授 松本博明
- 「持続的かつ戦略的な減災・復興教育プログラムの構築」
総合政策 教授 伊藤英之

(3) 地域政策研究センターの取り組み

② 地域協働研究

平成27年度 地域提案型【前期】 (期間：H27.7～H28.3)

課題名	提案者	代表者名 (学部)
○「十府ヶ浦米田地区海岸防潮堤復旧・整備に係る海浜植物の保全対策」 提案者：岩手県東北広域振興局	総合政策	准教授 島田直明
○「岩手県立図書館震災関連資料デジタルアーカイブズの利活用のあり方に関する研究」 提案者：岩手県立図書館	ソフトウェア情報	講師 富澤浩樹
○「三陸沿岸道路及び三陸鉄道開通に伴う地域経済への影響と活用策」 提案者：岩手県沿岸広域振興局	総合政策	准教授 山本健
○「震災復興と地域活性化-机浜番屋群を拠点とした地域振興策の検討を中心として-」 提案者：岩手県立図書館	ソフトウェア情報	講師 富澤浩樹

平成27年度 地域提案型【後期】 (期間：H27.11～H28.10)

課題名	提案者	代表者名 (学部)
○「災害派遣福祉チームの設置および活動に関する研究」 提案者：岩手県／社会福祉法人岩手県社会福祉協議会	社会福祉	教授 狩野徹
○「宮古市重茂半島における自然保護ファシリテーター(重茂レンジャー)の養成」 提案者：野崎産業	総合政策	教授 平塚明

(3) 地域政策研究センターの取り組み

③ 東日本大震災津波からの復興加速化プロジェクト研究

小川プロジェクト（期間：H26.6～H28.3）

課題名：釜石地区におけるICTを活用した孤立防止と生活支援型
コミュニティづくり -岩手県全域での展開を目指して-
研究代表者：社会福祉学部 教授 小川 晃子

<共同研究者>

社会福祉学部 教授 狩野徹、社会福祉学部 教授 宮城好郎、社会福祉学部 非常勤
講師 細田重憲、盛岡赤十字病院健診部 部長 鎌田弘之、盛岡市立病院神経内科
科長 佐々木一裕、日本遠隔医療学会 理事 長谷川高志、看護学部 講師 千田睦美、
ソフトウェア情報学部 教授 澤本潤、関東学院大学 教授 中野幸夫

<参画機関>

岩手県、市町村(釜石市、大槌町等)、(社福)岩手県社会福祉協議会、(株)NTTドコモ、
(株)シャープ



新田プロジェクト（期間：H26.6～H28.3）

課題名：岩手県沿岸地域における水産加工流通業の競争力強化と雇用の拡大
研究代表者：総合政策学部 准教授 新田 義修

<共同研究者>

宮古短期大学部 教授 植田眞弘、宮古短期大学部 准教授 松本力也、宮古短期大学部
教授 宮沢俊郎、水産総合研究センター 漁村振興グループ長 宮田勉、宮古市産業振興
部 部長 佐藤日出海、盛岡市役所地域福祉課 主査 佐藤俊治

<参画機関>

宮古市、漁業協同組合、水産加工業者等協同組合、水産加工業者等



(3) 地域政策研究センターの取り組み

③ 東日本大震災津波からの復興加速化プロジェクト研究

土井プロジェクト（期間：H27.6～H29.3）

課題名：さんりく沿岸における復興計画の3Dモデル化と人材育成

研究代表者：ソフトウェア情報学部 教授 土井章男

<共同研究者>

宮古短期大学部 准教授 大志田憲、総合政策学部 教授 高嶋裕一、八戸工業大学工学部 准教授 伊藤智也、いわてDEセンター 講師 榊原健二、いわてDEセンター 所長 黒瀬左千夫、オートデスク社 マーケティング土木・公共担当 野坂俊二、一関工業高等専門学校 准教授 佐藤陽悦、宮古市 都市計画課長 中村晃、陸前高田市 都市整備局長 山田壮史、大槌町都市整備課 鎌田圭亮

<参画機関>

いわてデジタルエンジニア育成センター、オートデスク社、八戸工業大学、一関工業高等専門学校、宮古市、陸前高田市、大槌町



(4) いわたの教育及びコミュニティ形成復興支援事業

①学生ボランティアによる小中高校向け学習支援・居住支援

文部科学省大学改革推進等補助金(大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業)による支援

- ・県立大学は、国の補助による「いわたの教育及びコミュニティ形成復興支援事業」を活用して、「一般社団法人子どものエンパワメントいわた」による、心のケアと同時に進学への意欲や進路決定、夢の実現へ向かうことを目的とした、被災地の子どもの居場所づくり、大学生による傾聴が可能な自学自習方式の学習支援等の活動の支援を行っている。
- ・平成27年度も昨年度に引き続き、これまでの取組みを継続しつつ、地域のニーズを捉えて実施している。活動状況は、5市町において、利用生徒数は延べ6,300名にのぼり、派遣した支援相談員数は延べ2,147名 学生ボランティア延べ220名(うち岩手県立大学の学生ボランティア延べ20名)となっている。

陸前高田市

第一中、横田中、米崎小、広田小

- 【活動期間】平成23年11月～実施中 【対象】小中高生
- 【活動形態】週2～6回(平日19時～21時、日曜日13時～15時 or 9時～17時)
- ・学習支援相談員7名が交替で常駐
- ・毎週日曜日には岩手県立大の学生ボランティアによるサポートを継続



宮古市

崎山自治会館、崎山中学校、駒形通公民館、第二中学校グラウンド仮設住宅

- 【活動期間】平成24年2月～実施中 【対象】小中高生
- 【活動形態】週1～3回(平日16時～19時 or 16時～20時 or 16時～17時 or 17時～19時)
- ・学習支援相談員7名が交替で常駐

釜石市

唐丹中、東中、小佐野公民館

- 【活動期間】平成25年1月～実施中 【対象】小・中学生
- 【活動形態】週2～3回(平日15時～17時 or 16時～17時)
- ・学習支援相談員3名が交替で常駐



大船渡市

越喜来地区(杉下・甫嶺、仲崎浜仮設住宅)、大田仮設住宅、赤崎地区公民館

- 【活動期間】平成24年7月～実施中 【対象】小中高生
- 【活動形態】週1～3回(平日19時～21時 or 18時～20時、日曜日9時～15時)
- ・学習支援相談員5名が交替で常駐
- ・毎週日曜日には岩手県立大の学生ボランティアによるサポートを継続

住田町 世田米中

- 【活動期間】平成25年4月～実施中 【対象】中学生
- 【活動形態】週2回(平日18時半～20時半 or 17時半～20時半)
- ・学習支援相談員3名が交替で常駐

(4) いわたの教育及びコミュニティ形成復興支援事業

②学生ボランティアを中心とした地域コミュニティ復興支援

文部科学省大学改革推進等補助金(大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業)による支援

- ・震災直後、岩手県内では若いボランティアが不足。一方、学生たちは、移動手段や宿泊場所・食事の確保の難しさから活動に参加できずにいた。こうした中で、本学の学生ボランティアセンターが立ち上がり、NPO法人等の協力を得て「いわてGINGA-NETプロジェクト」を結成。これにより、これまでになく規模で、全国の学生ボランティアによる被災地支援活動が展開された。
- ・県立大学では平成23年度から国の補助をうけ、「いわての教育及びコミュニティ形成復興支援事業」を実施。このような学生ボランティアによる被災地でのコミュニティ支援や学習支援、学生ボランティアの育成等を支援している。
- ・なお、「いわてGINGA-NETプロジェクト」の成果を引き継ぎ、平成24年2月に本学の学生有志を中心に「特定非営利活動法人いわてGINGA-NET」が発足し、被災地のコミュニティ支援活動に主体的に取り組んでいる。県立大学は上記補助事業により、引き続き同法人の活動を支援している。
- ・同法人は、学生の夏季休業期間や週末を活用し、応急仮設住宅でのサロン活動、学校・公民館での子どもの学習支援、漁業支援、地域イベント支援等、被災地の多様化したニーズに対応して活動している。

〔夏銀河〕H27.8.19~9.11の間の6週間

活動地域：宮古市、山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、住田町、遠野市

参加学生：44名（14大学）

〔春銀河〕H28.2.24~3.7の間の2週間

活動地域：釜石市、大船渡市、陸前高田市、山田町、大槌町、住田町、花巻市

参加学生：54名（16大学）

〔週末ボランティア〕

	1回	2回	3回	4回	5回
日程	H27.4.12	H27.5.10	H27.11.28 ~29	H27.12.19	H28.2.28、3.6
活動地域	大槌町	大槌町	釜石市	山田町、大槌町、 釜石市	住田町役場 五葉地区公民館
参加学生	28名	4名	5名	9名 29名(高校生)	54名 44名(高校生)



(4) いわたの教育及びコミュニティ形成復興支援事業

③学生ボランティアを対象とした地域コミュニティ支援力養成

文部科学省大学改革推進等補助金(大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業)による支援

・「いわたの教育及びコミュニティ形成復興支援事業」として、学生を対象とした「コミュニティ支援力養成研修」を実施。災害復興支援をテーマとした研修会を開催し、被災地域の支援だけでなく、それぞれの地元地域の防災、減災への意識を高め、将来起きうる大規模災害のプロフェッショナルを養成を目的に開催。

・コミュニティ支援力養成研修会開催状況

回	日時	場所	参加者	主な内容(テーマなど)
8回	平成27年8月8日(土)～9日(日)	住田町五葉地区公民館ほか	全国の11の大学等の学生16名	・東日本大震災発生からの流れを振り返る ・仮設住宅引越支援グループワークなど



・いわたの教育及びコミュニティ形成復興支援シンポジウム開催

これまでの事業の取り組みと成果について報告するとともに、学生・教職員・地域の方々などと大学(学生)の取り組みに向けた課題と展望について共通理解を深め、今後の支援活動に資することを目的にシンポジウムを開催。

日時	場所	参加者	主な内容
平成28年2月20日(土) 13:00～16:20	エスポワール いわた	学生、地域で学生を受け入れているNPO等団体、行政機関、地域住民、大学教職員等約100名	・各事業の報告 ・事業参加学生によるリレートークとポスターセッション ・「地域と学生をつなぐー大学による復興支援・人材育成の成果と今後の展望ー」シンポジウム

(5) 学生による支援



①宮古短期大学部学生赤十字奉仕団(JRC) —創立：平成20年度—

- 平成20年度の活動開始以来、宮古市社会福祉協議会との緊密な連携のもと、地域住民の要請に応えるよう奉仕活動を実施している。
- 東日本大震災発生後は、被災者支援の活動を主として、側溝の海泥の清掃、個人宅の片付け、支援物資の仕分け、仮設住宅サロン運営の補助やシチューなどお振舞い、独居高齢者の孤立を防ぐ訪問活動や生活再建への協働など地域の復興に向けたボランティア活動に従事している。
- 平成27年度は、赤十字精神のもと主に以下の支援活動に従事した。①NHK公開復興サポート「明日へin宮古」各番組出演、②宮古市「街なか復興市」や宮古市社会福祉協議会「わくわく祭り」など復興関係の地域行事出店、③復興公営住宅交流会参加、④被災者支援を考える日本赤十字社青年リーダー研究会など青年赤十字奉仕団行事参加、⑤宮古駅前花植、⑥日本赤十字社青年奉仕団員被災地訪問（福島県）参加（顧問・学生委員長）、⑦被災地研修の企画～実施（田老地区）、その他

(写真リスト) ア 宮古街なか復興市

イ NHK公開復興サポート

ウ 復興公営住宅交流会

エ 青年赤十字奉仕団被災地訪問

ア



イ



ウ



エ



(5) 学生による支援

② 復興girls & boys*

《被災地企業商品の販売活動》

「復興girls & boys*」は、岩手県の沿岸企業の商品の受託販売やPRを主な活動とし、東京のアンテナショップや県内外のイベントに出向き、商品販売・情報発信活動を行っている。

東日本大震災で被害を受けた被災地の仕事の復興の手助けをしたいと、平成23年5月から活動を開始した。同年度には、活動が評価され「社会人基礎力育成グランプリ大会」の準大賞も受賞した。

現在は、沿岸被災地を訪れ、事業者との販売に向けた打ち合わせや現状の聞き取り、新たな取扱い商品の拡大に取り組むとともに、盛岡手づくり村、盛岡競馬場、県外においては、いわて銀河プラザや、お声掛けいただいた復興支援イベント等に参加し、商品の販売活動や沿岸地域の情報発信活動を実施している。



(5) 学生による支援

③ うめえもん届け隊

《岩手県沿岸の魅力発信活動》

「うめえもん届け隊」は、岩手県沿岸地域の良さや魅力を「食」や「人」を通じて全国へ発信する活動。

「いわてGINGA-NETプロジェクト」に参加した学生が、釜石市や大槌町の復興商店街等の各店舗を訪問したなかで、大学生の力で地域を盛り上げたいと考え、活動を開始。

地域の各商店で作られている菓子等を、複数組み合わせ、ひとつのパッケージにして商品化。各商品の情報や製造者の思い等を伝えるパンフレットも作成し、商品に添えて販売した。

大学を越えた学生のネットワークを生かし、それぞれの大学祭で販売。27年度は、遠くは九州まで全国8大学で販売を行い、沿岸地域の魅力を発信した。



(5) 学生による支援

④ しまもぐプロジェクト

《企業等と連携したボールペン販売による支援活動》

「しまもぐプロジェクト」は、学生が企業の協力を得ながらオリジナルのボールペンを開発し、自分たちで販売活動を行い、売り上げの一部を赤い羽根共同募金を通じて被災地への支援にあてるという活動。

社会福祉学部の学生が中心となって、被災地支援を目的として結成されたプロジェクトチーム。

本学売店や、被災地支援に賛同を頂ける企業、県内で実施されるイベントを中心に、自ら営業活動を行い、販売活動を継続している。



(5) 学生による支援

⑤「被災地支援を行う学生ボランティア活動への支援事業」

被災地支援を行う学生ボランティア活動への支援事業を平成25年度から実施。
平成27年度に支援事業を活用して行った学生の活動は以下のとおり。

1. 【グループ名】復興girls&boys*

【概要】岩手県の沿岸地域の企業の商品の受託販売やPRを実施

- ・第3回東日本大震災復興応援イベント（8/29～8/30、東京都多摩市、参加学生6名）
- ・銀河プラザでの販売（9/7～9/8、東京都中央区銀座、参加学生7名）
- ・陸前高田市訪問（2/13～2/14、陸前高田市、参加学生4名）
- ・第4回東日本大震災復興応援イベント（2/26～2/28、東京都多摩市、参加学生10名）
- ・大槌町訪問（3/14、大槌町、参加学生3名）
- ・宮古・岩泉訪問（3/15、宮古市・岩泉町、参加学生3名）

ほか

2. 【グループ名】山登り美化団体

【概要】大船渡で長く続く登山行事の運営を支援、また登山道の清掃活動を実施し、大船渡の観光の復興を支援

- ・第42回今出山市民登山（6/14、大船渡市、参加学生8名）

3. 【グループ名】風土熟人R

【概要】いわてGINGA-NETの活動で交流を持った漁師のもとで漁業の手伝いを行う

- ・釜石市・大槌町・山田町漁業支援（6/27、釜石市・大槌町・山田町、参加学生10名）

4. 【グループ名】夏銀河2015参加学生、春銀河2015参加学生

【概要】全国の学生ボランティアによる岩手県沿岸地域での復興支援プロジェクトへの参加

- ・いわてGINGA-NETプロジェクト「夏銀河2015」（8/18～9/11、岩手県沿岸地域・住田町、参加学生9名）
- ・いわてGINGA-NETプロジェクト「春銀河2015」（2/23～3/7、岩手県沿岸地域・住田町、参加学生8名）

5. 【グループ名】カッキー'S

【概要】沿岸被災地の高校生を対象に、看護職等の業務を知り、進路決定の参考としてもらうためのイベントを開催

- ・看護職を目指す者の集い（3/13、宮古市、参加学生10名）

(6) 地域との連携

平成27年度岩手県立大学研究成果発表会の開催

ア 趣旨

本学の学部やいわてものづくり・ソフトウェア融合テクノロジーセンター（i-MOS）及び地域政策研究センター（地政研）等の取り組みと研究成果を広く知っていただくため、「岩手の地方創生」などをテーマとし、9月10日(木)、11日(金)に「プラザおでっ」、18日(金)に「本学滝沢キャンパス」で開催

イ 内容

◇講演発表 34講演

- ・i-MOS： ソフトウェア情報学部 准教授 蔡大維 他10講演
- ・地政研： 総合政策学部 准教授 新田義修 他14講演
- ・学部： 社会福祉学部 教授 狩野徹 他7講演

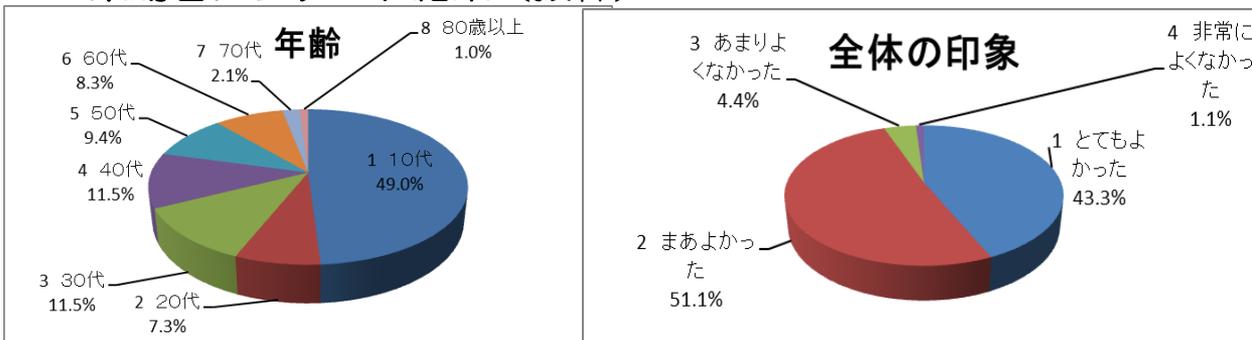
◇パネル展示

パネル展示 95課題

(i-MOS：25課題、地政研：51課題、学部：19課題)

ウ 来場者数：336人

エ 来場者アンケート結果（抜粋）



(7) 他大学との連携

① 平成27年度「いわて学」,震災復興をテーマに開講【前期】

◇ 「いわて学」は、岩手県内5大学連携(いわて高等教育コンソーシアム)による共通授業として岩手県立大学が主務校となり平成22年度から開講している。

平成27年度前期は授業のテーマを『「三陸から知るいわて」～いわての復興を考える』として三陸地方の地域振興に視点を当て、地域特性や復興についての講義やグループワークを実施し、5月16日(土)から6月27日(土)までの15回開講(履修:40名)した。

回	日 程		テーマ・内容	講師(敬称略)	会 場
1.2	5/16 (土)	9:30~12:45	○グループワークで考える三陸 ○地誌から知るいわて	岩手県立大学 豊島 正幸	71-ナ 803
3.4	5/23 (土)	9:30~11:00	○漁業・漁村から知る三陸いわて	岩手県立大学 豊島 正幸	マリナ 188
		11:15~12:45	○産業・経済から知る三陸いわて	岩手経済研究所 谷藤 邦基	
5.6	5/30 (土)	9:30~12:15	○文学から知る三陸いわて	盛岡大学 塩谷 昌弘	マリナ 188
		12:15~12:45	○現地講義に向けて	岩手県立大学 豊島 正幸	
7.8.9	6/6 (土)	9:30~15:00	○博物館から知る三陸いわて (岩手県立博物館での現地講義) ・三陸ジオパーク(望月) ・岩手の古代集落(丸山) ・マツリは三陸の希望の光(山屋)	岩手県立博物館 望月 貴史 丸山 浩治 盛岡市立高等学校 山屋 賢一	岩手県立 博物館
10.11 12.13	6/13. 14 (土・日)	1泊2日	○現地で知る三陸いわて (釜石・大槌・山田周辺での現地講義)	・釜石市 生涯学習 文化課 ・同 郷土資料館 ・大槌町 佐々木 健 ・おらが大槌夢広場	釜石市 大槌町 山田町
14	6/27 (土)	9:30~11:00	○三陸復興に向けた課題 ー鉄道復旧からみるー	三陸鉄道株式会社 成ヶ澤 亨	岩手県立 大学 共通講義 棟2階 206、207
15		11:15~12:45	○グループワーク(まとめ)	岩手県立大学 豊島 正幸	



(7) 他大学との連携

② 平成27年度「いわて学」、平泉をテーマに開講【後期】

平成27年度後期は授業のテーマを『「平泉から知るいわて」～いわての復興を考える』として平泉を支えたいわての地域資源や、平泉前史を踏まえた講義やグループワークを実施し、10月10日(土)から11月28日(土)までの15回開講(履修:32名)した。

回		日	内容	講師	会場
1. 2	10/10 (土)	9:30~12:45	○平泉を成立させた過程の概要説明 ○グループワークで考える平泉	岩手県立大学 豊島正幸	マリオス 188
3	10/17 (土)	9:30~11:00	○文学から知る平泉	盛岡大学 塩谷昌弘	マリオス 188
4. 5. 6	10/31 (土)	①集合:盛岡駅西 口 8:15 ②解散:盛岡駅西 口 15:15	○現地講義・志波城古代公園の視察 ----- ・「遺跡から見た古代から中世」(盛岡市遺跡の学び館 研修室) ----- ・「平泉を成立させた歴史的背景」(盛岡市遺跡の学び館 研修室)	志波城跡愛護協会 見学案内スタッフ 盛岡市遺跡の学び館職員 盛岡大学 熊谷常正	盛岡市
7. 8. 9	11/7 (土)	①集合:盛岡駅西 口 8:00 ②解散:盛岡駅西 口 16:30	○現地講義「古代北方支配の拠点としての胆沢城」奥州市埋蔵文化財調査センター及び胆沢城跡の視察 ----- 「平泉に先立つ仏教の一大聖地:国見山麁寺」北上市埋蔵文化財センター及び国見山麁寺跡の視察	奥州市埋蔵文化財 調査センター職員 北上市博物館職員	奥州市 北上市
10. 11	11/14 (土)	①集合:盛岡駅西 口 8:00 ②解散:盛岡駅西 口 15:00	○現地講義「浄法寺漆について」 ・浄法寺漆の視察(滴生舎) ・浄法寺歴史民俗資料館の視察 ・浄法寺漆イベントの視察	滴生舎職員 浄法寺歴史民俗資料館職員	二戸市 (浄法寺)
12	11/21 (土)	9:30~11:00	○海を渡った鉄ー蕨手刀・鉄鍋・南部鉄ー	岩手県立博物館 赤沼英男	マリオス 188
13		11:15~12:45	○天平産金とその時代	宮城県涌谷町教育 委員会生涯学習課 福山宗志	
14	11/28 (土)	9:30~11:00	○観光の広域連携について	花巻観光協会 伊藤新一	アイナ 803
15		11:15~12:45	○グループワーク(まとめ)	岩手県立大学 豊島正幸	



3 危機管理の対応

(1) 滝沢キャンパスの状況

全学的な防災訓練の実施

10月13日に全ての学生、教職員、大学関係者を対象とした防災訓練を実施

訓練は震度6強の地震及び火災の発生により全学での避難が必要な状況の想定の下、実施し、学生、教職員併せて1,415名が参加した。

昨年度までの緊急放送、避難、負傷者救護等の訓練項目のほか自助による避難困難者への避難支援訓練などを追加し、防災意識向上のためAED講習会、地震・煙体験を実施した。

なお、独立していた安否確認システムを他の学内システム内に移行し、それらの報告訓練を併せて実施した(報告率:学生72%、教職員86%)

※ 安否確認システムによる報告訓練を年4回実施

学内の放射線量率の管理

9月に学内主要地点(滝沢29箇所、宮古9箇所)における空間放射線量率を計測したが、文部科学省通知により除染等の速やかな対策をとることが望ましいとされる「 $1 \mu\text{Sv/h}$ 以上」に該当する地点はなかった。

また、平成24年3月から岩手県と連携し本学敷地内にモニタリングポストを設置し、全国の観測網とリンクして、24時間、365日の観測体制がとられている。

非常用物資貯蓄について

学内に防災倉庫を設置し、災害への備えとして災害対応備品・非常食等(救助工具、多機能ラジオ、トランシーバー、アルファ米、非常用保存水等)を配備している。

節電の取り組み

平成27年夏期は定着している取組を基本とし、教育研究環境や健康への影響を極力回避した無理のない範囲内で取組を行った。気温が高めだったため、夏季3ヶ月における実績は、平成26年夏季に比べ、ピーク時電力は2.1%の増、使用電力量は0.1%の増となった。

危機管理マニュアルの整備

危機管理対応指針(平成18年制定)の下、様々な危機に迅速、適切に対応できるよう以下のとおりマニュアルを整備している。

- ・風水害・火山災害 ・大規模地震 ・火災 ・暴力
- ・NBCR災害 ほか8事象に係るマニュアル

その他

- ・滝沢村(当時)との「大規模停電時等における臨時避難所としての使用に関する協定」を締結。(H24.3.27)
- ・岩手県と災害発生時のボランティア等への情報提供、一時滞在等の役割を担う広域防災拠点施設の利用に関する協定を締結。(H27.3.31)

3 危機管理の対応

(2) 宮古キャンパスの状況

1 マニュアル作成状況等について

- (1) 宮古短期大学部危機対策本部設置要領
平成22年7月1日制定
- (2) 地震・津波対策マニュアル
平成25年1月30日制定
- (3) 風水害対応マニュアル
平成26年8月6日制定
- (4) NBCR災害対応マニュアル
平成26年8月6日制定
- (5) 暴力対応マニュアル
平成26年8月6日制定

ファイルにまとめて、全教職員に配布・周知

2 非常用物品等の購入・整備等について

非常用物品の備蓄(H27年度整備分)

- 栄養食品等食料:1,500食
- 飲料水(500ml):1,600本
※備蓄全体(食料:4,500食、飲料水:4,800本)の1/3を毎年更新
- 備蓄倉庫の設置
※床面積:9.77㎡、床加重:300Kg/㎡

3 各種対策等の実施状況等について

- 27.4 新入生への学生生活等ガイダンスでの説明
(地震・津波対策)
- 27.4 学生の住居一覧作成
- 27.4 各教室へ「災害時の対応」、「避難経路図」の表示
- 27.5 災害時安否確認システムを使用した確認訓練(1回目)
- 27.5 ゼミ担当教員から各ゼミ生の安否確認訓練(1回目)
- 27.7 「防災講義」実施
講師:岩手県総務部総合防災室職員
- 27.10 災害時安否確認システムを使用した確認訓練(2回目)
- 27.10 ゼミ担当教員から各ゼミ生の安否確認訓練(2回目)
- 27.12 自衛消防訓練(総合消防訓練と併せて実施)
- 27.12 学生寮自衛消防訓練

- 27.4 「学生便覧」に地震・津波マニュアルと避難場所を掲載